

(様式6)

近藤 健 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Effects of a nurse-occupational therapist meeting on function and motivation
in hospitalized elderly people: A pilot randomized control trial
(入院中の高齢患者の日常生活機能と意欲に対する看護師－作業療法士会
議の効果：パイロット無作為化比較試験)
British Journal of Occupational Therapy (in press)
Ken Kondo, Naoto Noguchi, Ryoto Teshima, Koji Tanaka, Bumsuk Lee

論文の要旨及び判定理由

入院高齢患者の日常生活活動を支援する医療職種として看護師と作業療法士が知られている。この2職種の協働は入院高齢患者の日常生活活動の維持、向上に欠かせないが、その具体的な効果は十分に議論されていない。このパイロット無作為化比較試験では、日常生活活動に関連する運動機能および社会的認知機能、意欲の改善に対する看護師－作業療法士会議の有効性を、地域包括ケア病棟に入院中の患者を対象に、コントロール群と協働による介入群に分けて比較検討した。対象は、リハビリテーションを処方された65歳以上の患者38名を無作為に、コントロール群、看護師－作業療法士会議群(介入群)の2群に分けた。対象者両群の患者の医療計画は、毎週の学際的なチーム会議で議論された。日常生活活動の問題の詳細は、看護師－作業療法士会議のみで議論された。基本属性を診療録より収集した。アウトカムは運動機能および社会的認知機能に機能的自立度評価法(FIM)を用いて評価し、意欲をVitality Index(VI)を用いて評価した。評価は、地域包括ケア病棟入棟時と退院時に実施した。両群は同頻度のリハビリテーションとチームの会議を実施したが、介入群のみ看護師－作業療法士会議を1回Situation-Background-Assessment-Recommendation(SBAR)テクニックを用いて追加実施した。2群間の基本属性、初期評価には有意な差は認められなかった。群内比較では両群ともにFIM総得点、FIM運動合計点、各運動項目点(セルフケア、排泄管理、移乗、移動)は向上したが、介入群のみFIM認知合計点、FIM認知-社会的認知、VI総得点、VI-食事、VI-トイレ)が向上した。2群間比較ではFIM認知合計点、FIM認知利得、FIM認知効率とVI総得点、VI-食事に追加の改善が認められた。運動機能はコントロール、介入群ともに向上し、コントロール群と比較して介入群では日常生活活動に関連する社会的認知機能と意欲にさらなる改善が見られた。本研究は、看護師－作業療法士の会議は、入院中の高齢患者の日常生活活動をさらに改善する可能性があることを示唆しており、リハビリテーション学分野での重要な研究と認められ、博士(保健学)の学位に値するものと判定した。

(令和3年4月13日)

審査委員

主査

群馬大学大学院教授

リハビリテーション学講座

菊地 千一郎

印

副査

群馬大学大学院教授

リハビリテーション学講座

坂本 雅昭

印

副査

群馬大学大学院教授

リハビリテーション学講座

三井 真一

印

参考論文

なし